

第4回市民会議 グループ討議 模造紙(まとめ)

Aグループ

意見集約に向けた前提条件

全体会
での議論



意見集約

分科会

・アンケートなど
(手法はいろいろある)

- ・第四次総合計画の検証、見直し
(行政のもつ情報提供を)
- ・現状の把握(箕面市、社会情勢)
(勉強会? 情報提供?)
- ・市民が受けるサービスの市の経営状況
市民ができることは市民が
- ・現実に目を向けた案を考える
- ・財政的条件などの整理
(人口、財政、環境の変化) 枠組
- ・過去の10年とこれからの10年の違い(今後の見通し)
を見極める
- ・「市民」の多様化に対応 理念は抽象的

提言はどのレベルまで考えるのか

基本構想

基本計画

実施計画

計画期間をどう設定するか。

Bグループ

全体会議の進め方

[前回]

- ・ 4次総計の経費についての検証が必要
- ・ 弱いところを強くするのか、強いところを、より強くするか
- ・ お金がないのに夢が語れるの？
- ・ 会長がない方がよい
- ・ 市民会議の土台についても振れている

[今回]

- ・ 第4次総計の総括を
行政が4次総計の総括を発表する
- ・ 市民会議としての目標を(9月中旬に)
- ・ 第5次と4次は継続性が必要
- ・ プレーンストーミングを1月に(市民に意見を聞く前に)
- ・ 建物の見学など(第4次の実施したものを見学する)
- ・ 何回行かうか分からないが、4次総計の問題をすべて出しつくしてから

分科会(部会)の進め方

(1) 設置時期

- ・ 10月~12月に分科会からの意見をまとめる。
- ・ 分科会を10~12月に
- ・ 現在、市がかかえる問題点を出す(10~12月に)。それから分科会をする。

(2) 開催回数・頻度

- ・ どんな問題があるのかについて分科会を決める
- ・ 最低週一回

(3) 部会の分け方・構成

- ・ 入りたい部会に入る
- ・ 複数の部会に入ることも可能

(4) 人数・参加人数 (5) 部会活動プロセス

- ・ 「何人以上」というルールは？ そのとき分科会を決めるときに
- ・ 1人もありかなあ
- ・ 多い方がいい

市民意見集約の方法

誰に	どのようなこと(何を)	どのように
・ 子ども ・ 大人 ・ 高齢者	・ ある程度案としてかたまったもの ・ 分科会で出された意見について	直接会って意見を集める (Face to Face)

提言書イメージ

- ・ 総合計画の計画案をつくる
- ・ 市民の声を集約する
- ・ 行政側の意見ともマッチングさせたもの

Cグループ

(第4回で追加されたポストイット)

分科会のあり方

- | |
|-------------|
| ・ 出入り自由な分科会 |
|-------------|

プロセス

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 9月中に分科会に分かれる・ 9月 分科会、アンケート方法、内容検討・ 10月 全体会で各分科会のアンケート内容を1枚にまとめ市民に配布・ 11月～12月 各分科会でアンケート結果を分析・ 1月～2月 アンケート結果をもとに提言書案を作成。公開。意見聴取。・ 3月 提言書完成 |
|--|

Dグループ

提言書のイメージ

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 10年後の姿(行財政の問題も含む)・ リーディングプロジェクトを4つ選びそれを提言する。・ 第5次策定方法についての意見の提言・ 第5次総合計画市民案の作成 |
|---|

全体会議の進め方

9月～10月	<ul style="list-style-type: none">・ 人口、財政、地方自治体、福祉等の見通し・ 第4次総合計画の検証(論議)・ 提言内容のおおよその設定・ 分科会の設置についての方針決定
10月～3月	<ul style="list-style-type: none">・ 各分科会の意見交換・ 中間報告の準備

分科会(部会)の進め方

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 各地域で取り組んでいるグループの人に今後将来何を必要かを伺う・ 問題点・ 日程的に合うメンバーで行う |
|--|